

佐野市中心市街地活性化のための沿道景観整備施策の検討

宇都宮大学 学生会員 ○阪路 英史
宇都宮大学 正会員 阪田 和哉

1. はじめに

近年、わが国では市民意識の多様化などの大きな時代のうねりの中で、地方の疲弊が社会問題化しており、平成16年の景観法の制定や、平成18年の中心市街地活性化法などのいわゆる「まちづくり三法」の改正により、中心市街地の活性化に向けた取り組みが進められている。佐野市においても中心市街地（まちなか）は郊外への大規模商業施設の出店やモータリゼーションの影響を受け、衰退しているのが現状である。

本研究では、現在佐野市が進めている景観形成によるまちなか活性化に着目し、研究対象地区の現状把握とまち歩き現地調査を通して課題を明らかにし、既往研究や先進事例等の調査から、課題解決のための景観整備施策を検討することで、佐野市まちなかに適した沿道の景観形成を提案することを目的とする。

2. 佐野市の概要及びまちなかの現状

2-1 佐野市の概要

佐野市は栃木県の南西部に位置し、面積約356km²、人口約125,000人の都市であり、平成17年に、旧佐野市・旧田沼町・旧葛生町が合併し誕生した。首都圏から70km圏内に位置し、市内を国道50号線、東北自動車道、北関東自動車道、JR両毛線、東部佐野線が通る交通拠点となっている。また観光地として、関東三大厄除けである佐野厄除け大師や佐野プレミアムアウトレットがあり、休日には県内はもとより関東全域からも多くの観光客が訪れている。佐野厄除け大師は中心市街地の南西部、佐野プレミアムアウトレットは佐野藤岡ICそばに位置している。

2-2 まちなかの現状

佐野市の調査によると、旧佐野市における人口はほぼ横ばいであるのに対し、まちなかにおける人口

は平成12年度から平成20年度の8年間で約1,200人減少しており、歩行者通行量は、1時間で60～80人程度と少ない。また、空き店舗数は増加しており、まちなかの総店舗数における空き店舗率も増加傾向にある。これらより、まちなかは衰退の一途をたどっていると考えられる¹⁾。

3. 研究対象地区の概要

本研究における研究対象地区は、佐野市が中心市街地の顔となるシンボル軸として位置付けている県道桐生岩舟線及び市道1級1号線の沿道とし、県道桐生岩舟線は高砂町駐車場～万町駐車場までの約400mの区間、市道1級1号線は駅入り口交差点～影澤医院付近の約200mの区間とする。

景観特性として、県道桐生岩舟線では東側に中高層のビル群があり、西側には低層の歴史的建物が点在している。市道1級1号線は、比較的低層の歴史あるまちなみになっている。

この2路線については、既に拡幅整備が計画されているが、実施には至っていない。



図1 研究対象地区

キーワード 佐野市 景観 活性化 まちなか

連絡先 〒321-8585 栃木県宇都宮市陽東7-1-2 宇都宮大学工学部建設学科 Tel/FAX028-689-6220



写真1 中高層ビル群



写真2 低層の建物

4. まちなか活性化における課題の抽出

まちなか活性化における課題の抽出のために、まち歩き現地調査を行った。調査は本研究の対象地区において、参加者が「良い景観」及び「改善すべき景観」について気づいたことを自由回答でシートに記入する形式で行う。今回は課題の抽出を目的とするので、「改善すべき景観」の回答のみを使用する。計量テキスト分析ソフトである KH Coder を用いた共起ネットワーク分析の結果を図2に示す。

共起ネットワークにおいて、語と語が強い共起関係であるほど太い線で結ばれ、出現回数が多い語であるほど太い字で表される。また、比較的強くお互いに結びついている部分についてグループ分けを行い、色分けによって示す。

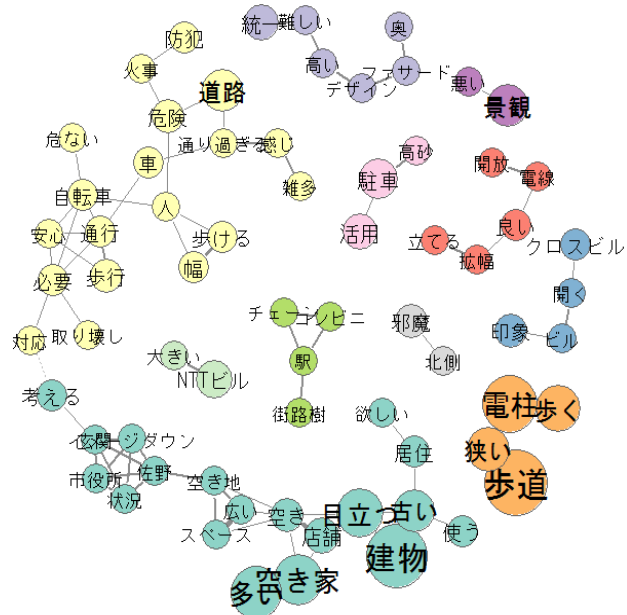


図2 改善すべき景観の共起ネットワーク

分析結果より、「歩道・狭い・電柱・歩く」「道路・危険・自転車・危ない」などの歩行に関するグループ、「建物・目立つ・空き家・空き店舗」などの空き家・空き店舗に関するグループ、「景観・悪い」「電線・開放」「統一・難しい・デザイン・ファサード」などのまちなみの統一に関するグループに大きく分けられていることが分かる。したがって、県道桐生岩舟線及び市道1級1号線における改善すべき景観は、歩行空間に関する景観、空き家・空き店舗に関する景観、まちなみの統一感に関する景観であると考えられる。また、2章で述べたように、まちなかの歩行者が少ない、空き店舗数の増加という現状を踏まえ、まちなか活性化における課題を、「回遊性の向上」、「空き家・空き店舗活用」、「まちなみの統一」、「佐野らしさの創出」の4つに設定する。「佐野らしさの創出」については、研究対象地区が佐野市まちなかの顔となるシンボル軸であるにも関わらず通りに佐野らしさを感じられないという点を考慮し課題とした。

5. 景観整備施策の検討

前章で抽出したまちなか活性化における4つの課題それぞれについて、既往研究及び先進事例等により景観整備施策の検討を行う。

5-1 回遊性の向上

回遊性の向上のための最低限の整備として、歩行者にとって歩きやすい歩行空間にするために道路の拡幅及び電線の地中化を行う必要がある。

パンノイら（2010）²⁾は、歴史的建造物が多く残り、近年多くの観光客が訪れている千葉県香取市佐原を対象として、歩行者追跡調査によって観光客の回遊行動の特徴が歴史的建造物や観光施設をめぐり歩く行動であり、回遊行動の出発点と終着点となる施設が少ない場所では、歩く距離が長くなるため観光客はあまり施設に立ち寄らないことを明らかにした。また考察から、回遊行動を促進する要素として、明確な都市空間、魅力的なスポット、まちなみの連続性、まち歩き情報ツールの4つを挙げている。ここで、明確な都市空間とは歩行者が自分の位置や方向を明確に認識できる都市空間のことである。

兵庫県篠山市中心市街地では、回遊性強化事業として空き店舗を活用したまちの拠点施設「ささやま工房 風花」を設立し、店内で花や生活骨董品の販売、園芸体験教室や喫茶コーナーを設けたことで、観光客のみならず多数の地元客の集客があり、回遊性強化につながった³⁾。

以上より、回遊性の向上における景観整備施策として、道路の拡幅・電線の地中化・まちの目印となり集客力を持った拠点施設・まちなか情報板の整備が有効であると考えられる。

5-2 空き家・空き店舗活用

山本（2007）⁴⁾によると、山梨県甲府市中心市街地は空き店舗対策事業により、中心市街地の空き店舗率が増加から減少へと転じた。主な事業として若者向けのチャレンジショップ事業を行い、空き店舗の減少と若者を中心とした賑わいの創出に成功した。佐野市においても、空き店舗対策、高齢化対策として、若者向けのチャレンジショップ事業を積極的に行うことが有効であると考えられる。

また、空き家・空き店舗活用においてはハード面の整備のみならずソフト面の施策も考える必要がある。愛知県犬山市では空き店舗活用事業として、改装費、家賃の他に外観補修費を補助金として給付している。この外観補修費の補助を受ける事業者は多く、住みやすさや城下町という魅力もあり、空き店

舗への出店数は6年間で28件と多い⁵⁾。

佐野市においても、ハード面も整備と併せて、補助金等のソフト面の施策の見直しが必要であると考えられる。

5-3 まちなみの統一

大分県豊後高田市商店街では、市街地活性化のために商店街の既存の歴史的建物を活用し「昭和のまち」を再生させた。各商店のパラペットを外し、以前の看板をむき出しにすることで昭和のまちなみとしての統一感を演出した⁶⁾。また、福島県会津若松市七日町通りでは、城下町という歴史的背景を活かし、画一的なモルタル造りの外観やシャッターを取り外し、大正・昭和初期の古き良き時代の木造建築を再構築することで景観づくりを行った⁷⁾。

これら2つの事例に共通していることは、統一感のあるまちなみが観光客に評価され多くの交流人口を生み出したことである。つまり、まちなみの統一は、集客及び賑わいの創出に影響するものであるといえる。

本研究では、研究対象地区の景観特性より、県道桐生岩舟線東側は中高層の現代的イメージ、西側及び市道1級1号線は低層の歴史的イメージでの景観づくりを考え、既存の建物の色彩の調和によってまちなみの統一感を演出する。本研究では、宇都宮市色彩景観ガイドライン⁸⁾により色彩誘導を行う。ガイドラインでは歴史的な配色、現代的（都会的）な配色は図3のように表わされる。

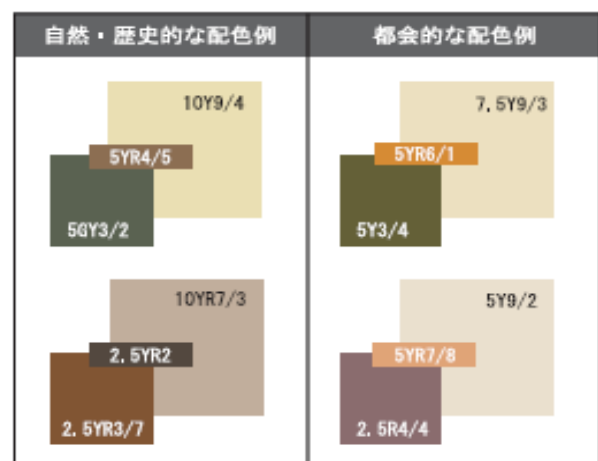


図3 配色例

5-4 佐野らしさの創出

研究対象区域が佐野市まちなかの顔となる通りであることから、歩く人にわかりやすく佐野らしさを表現する必要がある。佐野市まちなかを代表する主な伝統・文化として「天明鋳物」と「佐野ラーメン」がある。

「天明鋳物」は約千年の歴史を持つ美術工芸鋳物で、茶の湯釜や梵鐘、日光東照宮の青銅鋳物の宝塔など多くの作品が造られ、現在では鋳物師こそ減ってしまったが、その歴史と伝統は継承され続けている。

「佐野ラーメン」は全国的に有名な関東を代表するご当地ラーメンとして広く知られている。佐野市内全域に多く点在しており、昭和 63 年にまちおこしのために発足された「佐野らーめん会」には現在までに 77 店舗が加盟している。

本研究ではこの 2 つを佐野らしさの要素と捉え、佐野らしさの創出のための整備施策として、「天明鋳物」で造ったストリートファニチャーと「佐野ラーメン」の PR も兼ねたカラーフラッグを沿道に設置することが考えられる。



写真3 ストリートファニチャー（例）

6. 検討結果

まちなか活性化における課題解決のための景観整備施策の検討結果を表 1 に示す。

表 1 検討結果

課題	景観整備施策
回遊性の向上	道路の拡幅
	電柱の地中化
	拠点施設整備
	まち歩き情報板の設置
空き家・空き店舗対策	チャレンジショップ
まちなみの統一	色彩の調和
	・現代的配色 (県道桐生岩舟線東側) ・歴史的配色 (県道桐生岩舟線・市道1級1号)
佐野らしさの創出	「天明鋳物」の ストリートファニチャー
	「佐野ラーメン」のカラーフラッグ

7. おわりに

佐野市まちなか活性化における課題を明らかにし、既往研究及び先進事例から課題解決のための景観整備施策の検討及び提案を行った。しかし、景観整備だけでは必ずしも活性化は図れないため、イベントなどの集客力のある事業や定住人口増やす施策を併せて行う必要がある。

今後の課題としては、景観整備施策を実施していくための仕組みや手順についての検討が挙げられる。

参考文献

- 1) 佐野市, 「佐野市中心市街地活性化基本計画」, 2010 年
- 2) パンノイ・ナッタポン, 窪田垂矢, 鈴木亮平, 櫻庭敬子, 大熊瑞樹, 「観光客の回遊性を促進する要素に関する研究ー歴史的町並み・佐原における回遊性向上に関する研究その 1ー」, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 2010 年
- 3) 6) 7) 「がんばる商店街 77 選」, 中小企業庁 HP
<http://www.chusho.meti.go.jp/shogyo/shogyo/shoutengai77sen/index.htm>
- 4) 山本成人, 「地方都市中心市街地における空き店舗対策事業に関する研究ー甲府市を対象としてー」, 第 34 回土木学会関東支部技術研究発表会講演梗概集, 2007 年
- 5) 鈴木常夫, 「犬山市のまちづくりの研究 (二) : ー中心市街地活性化と空き店舗活用ー」, 現代社会研究科研究報告 第 2 号, 2007 年
- 8) 宇都宮市, 「宇都宮市色彩景観ガイドライン」, 2008 年

